よし、やってみよう！

富士川第二小中一貫校
松野学園中学部
学校だより

目指す子供像「夢を語れる子」
学校教育目標「自ら学び　ともにみがき合う」
重 点 目 標 「よし、やってみよう！」

令和8年10月27日 特別号

【全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします】

全国学力・学習状況調査を４月 23 日（木）、５月１日（金）に実施しました。今年度は、国語、数学、英語の ３ 教科が実施されました。本校生徒調査結果の分析をし、生徒の学力や学習習慣の現状と課題を整理しましたので、保護者の皆様にお知らせいたします。今回の結果を今後の教育活動や授業改善に活かし、生徒１人１人の成長につなげていきます。

全国学力・学習状況調査とは

全国学力・学習状況調査は、小学６年生と中学３年生を対象に行われています。

文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」は、「知識・技能、思考力・判断力・表現力」等、相互に関係し合いながら育成されるもの」という新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

【本校の調査結果と課題】

１. 国語

学習指導要領の内容		本校	全国(公立)
知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	65.2	63.0
	情報の扱い方に関する事項	69.6	70.4
思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	62.3	63.9
	書くこと	68.8	67.4
	読むこと	51.4	59.7

【平均正答率(%)】

ア 調査結果より

国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「書くこと」の平均正答率が全国平均を上回っています。特に、助動詞の働きについての理解や、単語の活用について「ら抜き言葉」を選択する問題は正答率が高く、漢字の書き取りや文法などの基礎知識が身に付いています。また、語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉える問題では、全国平均を上回る高い正答率を示しており、日頃の授業における主体的な取組みの成果といえます。一方「読むこと」では、全国平均を下回りました。文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることへの未定着が明確となっています。

イ 今後の取り組みについて

問題を解くためには、まずは問題文や資料をじっくり読み、何が問われているのか理解することが重要です。書き言葉の意味を正確に理解しにくくなっている背景には、年々読書量が落ちている影響があると考えられます。読書や新聞等活字を読むことの大切さを再確認すると共に、力を付けてきた分野もあるため、授業等を通して学習の全ての事柄が関連していることに視野を広げ、既習事項を活用した、主体的な学びを繰り返す中で力を伸ばせるよう支援していきます。

(2) 数学

学習指導要領の領域	本校	全国(公立)
数と式	62.6	67.8
図形	42.4	48.7
関数	44.9	54.8
データの活用	54.3	53.5

【平均正答率(%)】

ア 調査結果より

「数と式」と「図形」「関数」の問題で、正答率が全国平均を下回っています。関数や反比例の問題から、正しい条件から使うべき知識を選び、基本的な性質や法則を正しく理解し、必要な場面で使うことを心掛け、振り返りを充実させていきましょう。

作図の方法は知っていても、その操作にどんな意味があってその問題が問われているのか、図形の性質の理解を深めることが課題となります。一方、問9(3)の「データの活用」の問題は、平均正答率が全国基準を上回り、与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る力が身に付いています。

イ 今後の取り組みについて

小中の系統性を意識し、「なぜ?」を自分の言葉で説明する場面を増やし、問題文をよく読み、出題の意図を理解できる力を身に付けていきましょう。国語で「読む力」を身に付けながら、常日頃からあらゆる事象を数学化していくことなど、教科横断的な取組みで対応していきます。

(3) 英語

【英語(学習指導要領の内容)の平均正答率(%)】

学習指導要領の内容	富士川二中 【3技能】	全国(公立) 【3技能】	富士川二中 【話すこと】	全国(公立) 【話すこと】
聞くこと	1.0	1.2	1.1	1.2
読むこと・書くこと	2.5	2.6	2.5	2.6
話すこと	／	／	0.5	0.7

ア 調査結果より

全ての項目で、全国平均正答率を下回っていましたが「聞くこと」については、日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聴き取る力が身に付いていました。一方、「読むこと」では、文章の意味が理解できていなかったり、必要な情報を読み飛ばしてしまったりしがちなところに課題があります。「書くこと」では、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用する力が身に付いていました。「話すこと」では、未来表現(will)などの知識を活用して「考えや意図を伝える」ことに課題が見られました。どの項目も、更なる底上げが必要です。

イ 今後の取り組みについて

まず 4 技能は相関性が非常に強いため、大前提として 4 技能をバランスよく力を付けていく必要があります。また、「話すこと」については授業内等で、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識して活動を行い、ペアで互いの考えを伝え合ったり、内容面と言語面から学級全体で共有を行ったり、関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるよう、基礎基本を定着させていきます。

3 生活習慣や学習環境に関する質問調査

(1) 概況

ア 生活習慣

	朝食を毎日食べている	毎日同じ時刻に寝ている	毎日同じ時刻に起きている
本校	84.8(82.2)	39.1(33.3)	52.2(55.6)
全国(公立)	78.4	34.9	55.4

※( )の数字は昨年度の結果

上記の生活習慣の項目で本校の昨年比は改善されており、全国数値とも大きな差は見られなくなっています。生活リズムが安定していることは、学習習慣の安定へ通ずるものがあることから、今後の学力の向上に期待できます。

イ 将来について

	将来の夢や目標を持っている	人の役に立つ人間になりたい
本校	26.1(31.1)	69.6(68.9)
全国(公立)	37.4	69.8

※( )の数字は昨年度の結果

昨年比を下回る「将来の夢や目標を持っている」は、全国よりも 10 ポイント以上低い数値が見られます。本校の目指す子ども像「夢を語れる子」を学校生活のあらゆる場面で意識し、異学年で関わって対話を深め、地域や外部の方々と連携・交流し、意見交換をする機会を増やしていきたいと思います。また、「人の役に立つ人間になりたい」が全国を下回っていることも気になります。社会には直接的な関わり方だけでなく、間接的に関わることで役に立つことがあることを伝えていく必要があります。

ウ 自己肯定感

	自分に良いところがある	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがよくある
本校	21.7(26.7)	43.5(33.3)
全国(公立)	41.0	46.1

※( )の数字は昨年度の結果

「自分に良いところがある」「普段の生活の中で幸せな気持ちになることがある」は依然として低い数値を示しています。小中一貫校の強みを生かし、小中学校のたての接続と、小車ほっとルーム・地域・家庭との豊かな横の連携を通して、少しずつ自己肯定感を高め、夢や目標に向かって努力し続けることで向上することを目指します。これからも引き続き、夢や目標を掲げるだけでなく、そのための取組みを継続していきます。